

出張講義

地域
づくり

災害時の「恩送り」から社会の助け合いを考える

担当教員:大門 大朗 准教授

してはいけないこと、決まりごとやらなければならないこと、難しく言えば、倫理や道德、法律や制度、社会規範といったものにわたしたちは生きる上で縛られています。ですが、それらがもし消えて無くなってしまったら社会はどうなるのでしょうか。混乱、無秩序、混沌に陥り、犯罪が溢れかえるのではないかと思う人もいると思います。

この授業では、この当たり前を問い直すこと、つまり、これらがすべて「間違っている」と災害研究が示してきたことを学びます。そして、社会は混乱に陥るところか、むしろ、助け合い、協力しあい、寄付やボランティアといった良い面に特徴づけられるというのです。この助け合いの側面は、日本の中では、ある被災地から、次の被災地へと支援がつながっていきリレー—「被災地のリレー」—として見られるようになってきました。どうすれば、私たちは、他人(他者)から束縛されずとも良い社会を作っていくことができるのでしょうか。この側面を、災害の事例から一緒に考えてみましょう。

- 受講人数の目安:特になし
- 所要時間の目安:20分~(※授業に合わせて長くすることはいくらでも可能です)
- 高校でご準備いただきたいもの:プロジェクター、スクリーン